

## IgG4 関連疾患の 1 例

【症例】81 歳男性。

【既往歴】外傷性のくも膜下出血、硬膜下血腫。

【現病歴】平成 4 年 9 月に黄疸出現。近医にて腫瘍形成性膵炎による閉塞性黄疸の診断で PTBD 施行され減黄。その後 ERBD 留置にて経過観察となっていた。

平成 9 年に ERBD 閉塞による黄疸が再燃するものの抜去のみで経過観察となっていた。

その後も胆管炎を繰り返し、近医にて抗生剤による治療が行われていたが、ステント留置を薦められ、平成 21 年 9 月に当科紹介受診となった。

外来にて精査予定であったが、10 月上旬に食欲低下を主訴に来院され、肝機能異常を指摘されたため入院となった。

【入院時現症】血圧 132/68mmHg、HR82/min・不整なし、BT36.3°C、眼球結膜に黄疸軽度あり、新雑音なし、呼吸音正常、腹部は平坦軟で圧痛なし

### 【入院時検査所見】

WBC	4000	/ $\mu$ l	$\gamma$ -GTP	913	IU/l
Neut	63.3	%	LDH	260	IU/l
Ly	26.2	%	T-Chol	175	mg/dl
RBC	385	$\times 10^4$ / $\mu$ l	BUN	13.9	mg/dl
Hb	12.0	g/dl	Cr	0.70	mg/dl
Ht	35.7	%	CRP	0.78	mg/dl
Plt	17.7	$\times 10^4$ / $\mu$ l	BS	126	mg/dl
TP	8.8	g/dl	PT-sec	11.8	
Alb	3.1	g/dl	PT-INR	99.4	
T-Bil	2.3	mg/dl			
D-Bil	1.1	mg/dl	CEA	3.8	$\mu$ g/ml
AST	306	IU/l	CA19-9	81.9	$\mu$ g/ml
ALT	251	IU/l	リパーゼ	14	
ALP	2370	IU/l	PSTl	9.7	
AMY	89	IU/l			

【入院後経過】CT, MRCP にて胆管癌が疑われたが、経過が非常に長く、IgG4 高値であることから IgG4 関連胆管炎と考えられ ERCP を施行した。

肝門部に狭窄があり、左胆管は造影されたが右胆管は造影されなかった。狭窄部から擦過細胞診を行ったが、腫瘍細胞は認められなかった。

IgG4 関連自己免疫性胆管炎の診断にて PSL の投与を開始したところ、肝機能が速やかに改善した。